

駅弁販売
いづつや

井筒屋資料を新たに市の文化財に指定

☎ 市生涯学習課 ☎ 53-5154 FAX 53-5129



鉄道のまち・まいばらの 歴史を物語る

米原駅で1世紀以上駅弁販売をされた井筒屋。湖北地域ならではの食材を生かしたその味わいは、長年にわたり市民の方にも親しまれてきました。

井筒屋は安政元年（1854年）に長浜で旅館営業を開始し、米原駅が開業した明治22年（1889年）に、駅構内で駅弁販売を始めました。

昨年2月末、多くのファンに惜しまれながらも駅弁販売を終了しましたが、井筒屋には、駅構内での弁当販売許可を得るための当時の書類や、戦前から近年までの駅弁の掛け紙（包装用紙）、調理器具類、旅館営業に関する帳簿などの貴重な資料が保管されていました。そして今回、こうした資料一式を市に寄贈いただくこととなり、今年の4月22日、市は寄贈いただいた資料のうち345点を「井筒屋資料」として市の文化財（歴史資料）に指定しました。

日本固有の駅弁文化を示し、「鉄道のまち・まいばら」を象徴するこれらの資料を、末永く保存・活用していきます。

昭和前期「汽車土瓶」も市文化財に指定



「井筒屋資料」の指定にあわせて、平成6年に見つかった昭和前期の「汽車土瓶」12点も市文化財（歴史資料）に指定しました。「ぬまづ/桃中軒」（沼津駅）、「東華軒」（小田原駅）といった文字があり、東海道本線を旅してきたことが伺えます。

企画展「鉄道の町・まいばらと井筒屋」開催中！

「井筒屋資料」の市文化財指定を記念し、伊吹山文化資料館で企画展「風味・風土・風景感じる駅弁～鉄道の町・まいばらと井筒屋～」を開催中です！

【期間】9月13日(日)まで

☎ 伊吹山文化資料館 ☎ 58-0252



「井筒屋資料」市文化財指定に寄せて

はたなか えいじ

京都市立芸術大学 畑中 英二 教授（市文化財保護審議会委員）

日本を代表する文化の一つとされる駅弁。その関係資料が一括して自治体の指定文化財になっているものはほかになく、今回の事例は全ての先駆けとなります。

米原は、近畿と東海・北陸をつなぐ結节点にあたり、多くの人々が行き交いました。その地でご当地の駅弁を1世紀以上にわたって提供続けたのが井筒屋でした。その営みは、歴代の駅弁の掛け紙や、国鉄との間で交わされた大量の書類から伺い知ることができます。また、井筒屋は旅館やスーパーなども営んでおり、地域に根ざした経営が展開されていた資料も残されています。

これらの資料は井筒屋がいかにして駅弁を作り続けてきたか、地域の中でどのようにあろうとしていたかを示すものであり、本資料が「鉄道のまち・まいばら」を支えた産業・文化の一コマとして末永く保管され、語り継がれることを願っています。

